

# 唱歌♪ 童謡 マップ



発行 **新潟県** 県民生活・環境部 文化振興課

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4-1  
TEL 025-280-5138 FAX 025-280-5221 E-mail ngt030120@pref.niigata.lg.jp

詳しくはこちら → にいがたの唱歌・童謡マップ 検索

※現地訪問や撮影の際は、私有地に無断で立ち入ることや近隣の住民に迷惑をかけることの無いようお願いいたします。

## ① 汽車

村上市  
【作曲者出身地】

♪作詞：乙骨 三郎(おつこさぶろう) ♪作曲：大和田 愛羅(おおわだ あいら)



**歌碑所在地** JR村上駅前

この作品を作曲した大和田愛羅は明治19年(1886年)に旧村上藩士の家に生まれ、旧制新潟中学(現：県立新潟高校)から東京音楽学校(現：東京芸術大学)へ進み、戦後は東京芸術大学などで音楽の指導にあたりました。また、作詞者は長年不詳でしたが、近年の研究で乙骨三郎が作詞したとみられています。現在、JR村上駅前の広場には「汽車の碑」が建っています。

- 1.今は山中 今は濱  
今は鐵橋渡るぞと  
思う間も無く トンネルの  
闇を 通って 廣野原
- 2.遠くに見える 村の屋根  
近くに見える町の軒  
森や林や 田や畠  
後へ後へと 飛んで行く
- 3.廻り燈籠の 畫のように  
變る景色のおもしろさ  
見とれてそれと 知らぬ間に  
早くも過ぎる幾十里

## ② 港

旧安田町(阿賀野市)  
【作詞者出身地】

♪作詞：旗野 十一郎(はたの じゅういちろう) ♪作曲：吉田 信太(よしだ しんた)

**歌碑所在地** 阿賀野市立保田小学校 正門横



作詞者の旗野十一郎は旧保田村(現：阿賀野市)に生まれ、『ひつじぐさ』の訳詞・作曲をした吉田千秋の大叔父にあたります。初代保田小学校長、保田村戸長をつとめたのち上京し、陸軍参謀本部、文部省唱歌伝習所に仕出し、その後東京音楽学校の国語教師になり、『港』のほか、数々の明治唱歌の作詞も手がけました。十一郎ゆかりの保田小学校の正門横には「港の詩碑」が建っています。

1. 空も港も夜ははれて、  
月に数ます船のかげ、  
端艇のかよひにぎやかに、  
よせくる波も黄金なり。
2. 林なしたる欄に、  
花と見まがふ船旗草、  
積荷の歌のにぎはひで、  
港はいつも春なれや。



## ⑤ 琵琶湖周航の歌

旧新津市(新潟市)  
【作曲者出身地】

♪作詞：小口 太郎(おぐち たろう) ♪原曲：吉田 千秋(よしだ ちかあき)

この作品は大正6年(1917年)、旧制第三高等学校(現：京都大学)のボート部が琵琶湖畔に宿をとった際、部員の小口太郎が披露した詩に当時学生の間で流行していたメロディーに乗せて歌ったことから生まれました。その後寮歌として親しまれ、昭和46年(1971年)には加藤登紀子が歌い国民的大ヒットとなりました。そしてその後、この作品の原曲が「ひつじぐさ」であること、吉田千秋が作曲者であることが判明しました。

1. われは湖の子 さすらいの  
旅にしあれば しみじみと  
のぼる狭霧や さざなみの  
志賀の都よ いざさらば
2. 松は緑に 砂白き  
雄松が里の 乙女子は  
赤い椿の 森蔭に  
はかない恋に 泣くとかや
3. 浪のまにまに 漂えば  
赤い泊火 なつかしみ  
行方定めぬ 浪枕  
今日は今津か 長浜か
4. 瑠璃の花園 珊瑚の宮  
古い伝えの 竹生島  
仏の御手に いだかれて  
ねむれ乙女子 やすらげく
5. 矢の根は 深く埋もれて  
夏草しげき 堀のあと  
古城にひとり 佇めば  
比良も伊吹も 夢のごと
6. 西国十番 長命寺  
汚れの現世 遠く去りて  
黄金の波に いざ漕がん  
語れ我が友 熱き心

## ⑥ 旅愁

新潟市  
【作詞者勤務・作詞地】

♪作詞：犬童 球溪(いんどう きゅうけい) ♪作曲：オードウェイ[米国]



**歌碑所在地** 新潟県立新潟中央高校 前庭

この作品の元歌は、アメリカ人のオードウェイによって作られました。そのメロディーに新たな詩を付けたのが犬童球溪です。『旅愁』は、熊本県出身の犬童球溪が当時の新潟県立高等女学校(現：県立新潟中央高校)の音楽教師として赴任した、明治39年(1906年)に発表されました。現在、県立新潟中央高校の前庭には「旅愁の詩碑」が建っています。

1. 更けゆく秋の夜 旅の空の  
わびしき思ひに ひとりなやむ  
恋しやふるさと なつかし父母  
夢にもたどるは 故郷の家路  
更けゆく秋の夜 旅の空の  
わびしき思ひに ひとりなやむ
2. 窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき彼方に ころろ迷ふ  
恋しやふるさと なつかし父母  
思ひに浮かぶは 杜のこずゑ  
窓うつ嵐に 夢もやぶれ  
遙けき彼方に ころろ迷ふ